

第5章 計画策定の経緯

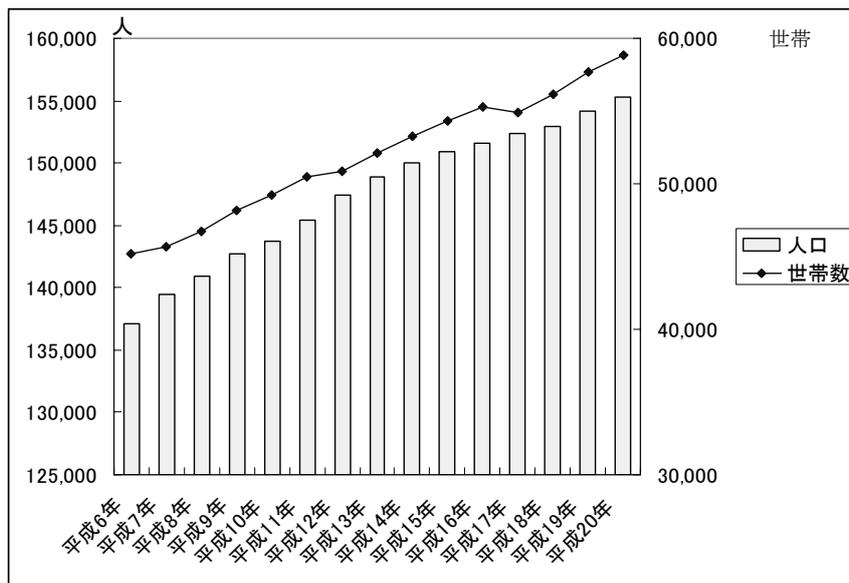
第1節 データからみた泉区の状況

1. 泉区の現況

(1) 人口・世帯数の推移

◇泉区は社会増に支えられて、人口、世帯数ともに増加している。

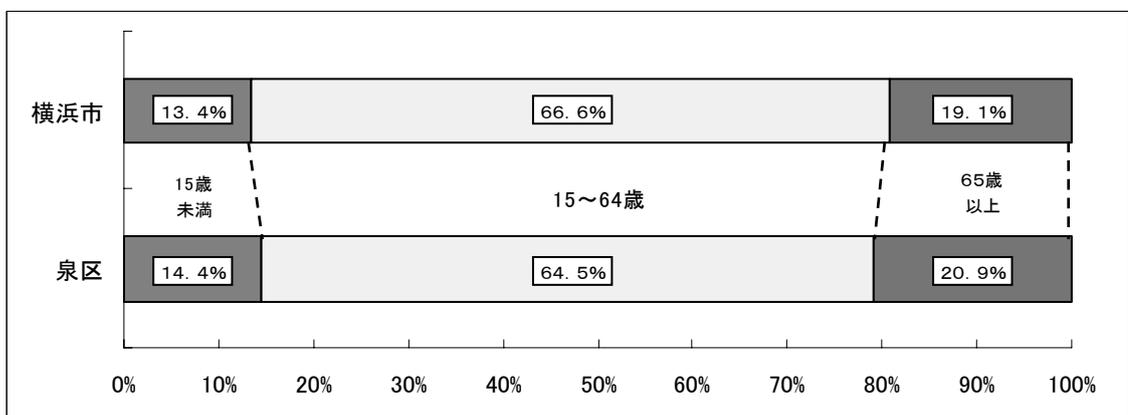
※社会増…一定期間内に流入してきた人と流出していった人の差を社会増減という。
社会増は、その差が増えていること。



泉区の人口	155,478 人	横浜市の 4.2%	
泉区の世帯数	59,376 世帯	横浜市の 3.8%	
泉区の総面積	23.56 k ^m ²	横浜市の 5.4%	平成 21 年 7 月 1 日現在

(2) 年齢3階層別人口

◇高齢者の割合が高いが、子どもの割合も高い。15歳～64歳人口の割合が比較的低い。



(3) 区の特徴的な指標

泉区の特徴として、以下の点が挙げられます。

- ◇ 核家族世帯が多く、単独世帯の割合は少ない。
- ◇ 持ち家、一戸建ての割合が高く、世帯あたりの人員が他区より多い。
- ◇ 市街化区域面積は小さく、人口密度は低い。
- ◇ 外国人の割合は、市全体と比較すると少ない。
- ◇ 犯罪、交通事故、火災等の発生は他区に比べて少ない。
- ◇ 農家数、農家人口が多い。
- ◇ 緑被率は高いが、公園面積は少ない。

■泉区の特徴的な指標における市との比較及び区内順位

		泉区	横浜市	18区中の 順位
核家族世帯比率(核家族世帯/一般世帯)	%	73.6	62.7	1
単独世帯数比率(単独世帯/一般世帯)	%	17.7	30.2	18

出展)平成17年国勢調査

持ち家比率(持ち家数/住宅総数)	%	65.5	57.6	1
一戸建て比率(一戸建て住宅数/住宅総数)	%	55.5	36.9	1
1世帯あたり人員(人口/世帯数)	人	2.6	2.3	2

出展)平成15年住宅・土地統計調査、横浜市統計書web版(平成21年7月1日現在)

人口密度(人口/土地面積)	人/km ²	6,599	8,438	18
市街化区域面積率(市街化調整区域面積/都市計画区域面積)	%	50.2	75.8	18

出展)横浜市統計書web版(平成21年7月1日現在)

外国人比率(外国人人口/総人口)	%	1.6	2.2	9
------------------	---	-----	-----	---

出展)横浜市区別外国人登録人口(平成21年6月現在)

人口10万人あたり犯罪発生件数	件	1,158	1,274	10
(うち粗暴犯)	件	40	83	18
(うち風俗犯)	件	2	10	18
人口1万人あたり交通事故発生件数	件	48	56	18
人口1万人あたり火災発生件数	件	1.8	2.7	17

出展)横浜市統計書web版

農家数(販売農家+自給的農家)	戸	478	4,423	5
農家人口(販売農家+自給的農家)	人	2,096	18,687	3

出展)横浜市統計書web版

緑被率(樹林地、草地、農地)	%	41.1	31.0	3
人口あたり公園面積	ha	2.6	5.3	17

出展)横浜市統計書web版

2. 泉区の福祉保健の現状

(1) データからみた特徴

データからみた泉区の福祉保健の特徴として、以下の点が挙げられます。

- ◇ 泉区の高齢化は進んでおり、高齢世帯の割合が高くなっている。
- ◇ 高齢夫婦のみの世帯の割合が高いが、独居高齢者は他区に比べて少ない。
- ◇ 母子世帯の割合が高い。
- ◇ 保育所は定員割れをしているところが見られる。

		泉区	横浜市	18区 中の 順位
高齢世帯比率	%	26.5	23.9	6
高齢夫婦のみ世帯比率	%	40.8	37.3	5
独居高齢者比率	%	21.3	28.3	18
母子世帯比率	%	1.5	1.1	2
保育所待機者数	人	27	707	11
保育所定員割れ人数	人	155	1,333	4

出展) 平成 17 年国勢調査、横浜市統計書 web 版

- ※ 高齢世帯比率…一般世帯に占める高齢者世帯（世帯主が 65 歳以上の世帯）の割合
 高齢夫婦のみ世帯比率…高齢世帯（世帯主が 65 歳以上の世帯）に占める高齢夫婦（男
 65 歳以上、女 60 歳以上）のみ世帯の割合
 独居高齢者比率…高齢世帯（世帯主が 65 歳以上の世帯）に占める高齢単身世帯の割合
 母子世帯比率…一般世帯に占める母子世帯数

(2) 高齢者福祉の現状

① 区内の高齢化の状況

(H21.3.31)			(H20.3.31)		
項目	人数	構成比	項目	人数	構成比
総人口	155,277		総人口	155,993	
65歳以上	32,384	20.9%	65歳以上	30,550	19.6%
40～64歳	52,222	33.6%	40～64歳	52,714	33.8%
39歳以下	70,671	45.5%	39歳以下	72,729	46.6%

* 一般に、総人口に占める65歳以上人口が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」と呼んでいます。

* 泉区では、平成13年に高齢化率が14%を超えました。

②区内の高齢者支援施設の状況

平成21年12月1日現在

種 別	施設数
地域ケアプラザ	5
地域包括支援センター	5
特別養護老人ホーム	13
ショートステイセンター	2
養護老人ホーム	2
ケアハウス	1
介護老人保健施設	6
介護療養型医療施設	1
認知症高齢者グループホーム	33
有料老人ホーム	2

(2) 障がい者福祉の現状

①障害者手帳交付状況

※法律上の名称を使用するときは「障害」とし、それ以外は「障がい」と表記しています。

(身体障害)

(平成21年3月末現在)

	障害別身体障害者手帳所持者数(人)					
	合 計	視覚	聴覚・ 平衡機能	音声・言語 ・咀嚼機能	肢体	内部機能
泉 区	4,164	282	343	34	2,319	1,186
横浜市全体【参考】	89,607	6,276	7,582	886	49,146	25,717

(知的障害)

(平成21年3月末現在)

	障害程度別療育手帳所持者数(人)				
	合 計	最重度A1 (IQ20以下)	重度A2 (IQ35以下)	中度B1 (IQ50以下)	軽度B2 (IQ75以下)
泉 区	981	205	232	232	312
18歳未満	357	54	72	52	179
18歳以上	624	151	160	180	133
横浜市全体【参考】	18,674	4,062	4,151	4,487	5,974

(精神障害)

(平成21年3月末現在)

	等級別精神保健福祉手帳所持者数(人)			
	合 計	1級	2級	3級
泉 区	775	88	440	247
横浜市全体【参考】	17,304	2,206	9,341	5,757

②障害者支援施設の状況

(障害者地域活動施設)

平成21年12月1日現在

区 分		施設数	
障害者地域活動ホーム	機能強化型	1	
	社会福祉法人型	1	
地域活動支援センター	障害者地域作業所型	9	
	精神障害者地域作業所型	3	
中途障害者地域活動支援センター		1	
障害者地域作業所	身体・知的障害者地域作業所	7	
グループホーム ケアホーム	身体・知的障害者	運営委員会型(A型)	6
		法人運営型(B型)	37
	精神障害者	法人運営型(B型)	2
精神障害者生活支援センター		1	
合 計		68	

(障害児施設・障害者施設)

平成21年12月1日現在

区 分		施設数
知的障害児施設		1
知的障害者福祉ホーム		1
障害者支援施設	身体障害	1
	知的障害	1
身体・知的障害者地域作業所小規模通所授産施設		1
障害福祉サービス事業所（日中活動サービス）*		5
知的障害者短期宿泊訓練施設		1
合 計		11

*休止中の事業所を除く

(3) 保育園の現状

① 保育園数

	園数	定員
公立保育園	2	174
私立保育園	22	2008

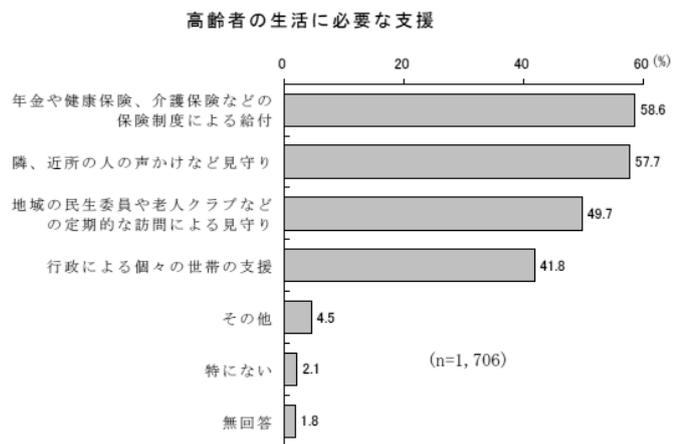
(人)
(平成21年7月現在)

3. 区民意識調査（平成18年度）の概況

平成18年に実施された区民意識調査の結果から福祉・保健に関して特徴的な項目を以下に紹介します。

★高齢者の生活に地区の見守りが求められている。

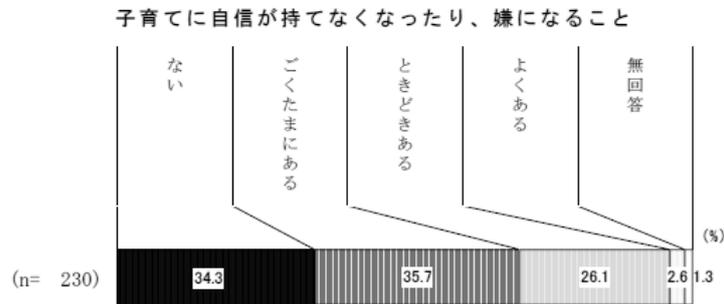
➤ 高齢者の生活には「隣、近所の人の声かけなど見守り」を必要とする人が6割近くを占めています。



★子育てに不安を持っている人が多く、相談に乗ってくれる人が求められている。

➤ 子育て中の人では、子育てにつらいことがあるという人が7割以上見られ、子育てに自信が持てなくなったり、嫌になったりすることがあるという人が6割います。また、カッとして子どもをたたいてしまったりすることも5割の人が「ある」と回答しています。

- 子育てに関する悩みや不安の相談相手として、家族をあげる人が多いですが、地区の友人・知人をあげる人も6割近く見られます。



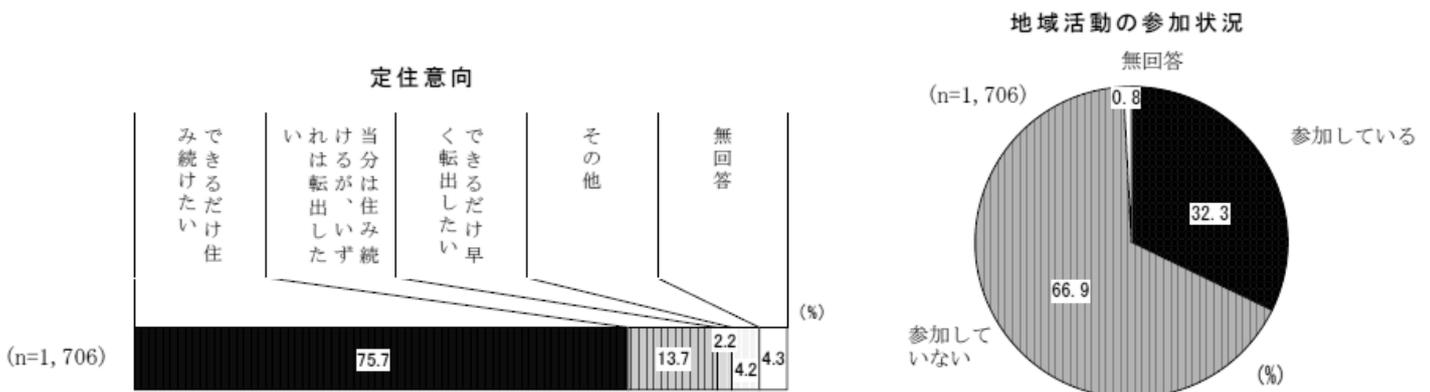
★ 高齢者が暮らしやすいまち、子どもの安全が守られるまちが課題となっている。

- 充実すべき行政の業務やサービスは、年齢層によって多少異なりますが、各年齢層で上位5位に入っている課題の中に、「高齢者が暮らしやすい環境づくり」「医療機関や救急医療対策などの充実」「子どもの安全対策」「介護保険サービスの充実」など福祉保健に関わる項目が含まれています。

★地域での支え合い、ボランティア活動の機会提供が重要となっている。

- 地域福祉保健の推進では、「地域福祉保健計画を策定し、地域との協働で各地域の特性に合わせた、様々な地域の支え合い活動を行う」ことが重要、どちらかという重要とする人が4割います。「中学生、高校生の地域福祉活動への関心を高めるために、高齢者福祉施設等でボランティア活動の機会を提供する」ことが重要、どちらかという重要とする人が7割います。「障害者が地域の中で安心して暮らせるよう、中学生、高校生とスポーツ交流する『ふれあい軽スポーツ大会』を開催する」ことが重要、どちらかという重要とする人が5割います。

★泉区に当面住み続けたい人は9割と多いが、地域活動への参加は3割と少ない。団塊世代では活動への参加に興味を持っている人が5割みられる。



第2節 地区別の懇談会の結果からみた泉区の状況

1. 地区別の懇談会で出された意見の傾向

地区別の懇談会は、12地区すべてで開催されました。

分野別で最も意見が多かったのは、本計画で土台の取組の一つと位置づけている「交流」についてであり、次いで分野別の取組である「こども・子育て」、「高齢者」の順になっています。

<土台の取組>

「交流」では、「活動」「日常のつきあい」「活動の場」に関連したものが多く、地区の支え合いを実現していくためには日頃からの交流が大きな要素となっていることが懇談会出席者の中で共通認識としてもたれていることがうかがえます。

「担い手」では、「担い手の確保」に関する意見が最も多く、地域コミュニティの中で中心となって活動している人たちの高齢化を背景に、これまでの活動を継続していくための人的資源の確保・育成という課題が浮き彫りになっています。

「情報」では、どこに行ったら情報が得られるのか分からないといった意見が多く、情報提供の方法や場所などについての工夫が必要だということがわかりました。

<分野別の取組>

「高齢」では、いつでも気軽に参加できる場や機会の増加を求める意見や支援が必要な高齢者の見守りや介護者家族への支援を地域ぐるみで行っていく必要性が上げられました。

「障がい」では、障がい者やその家族、障がい者施設への理解促進や交流の場を求める声が多くありました。

「こども・子育て」では、地域全体でこどもを育てることの必要性や、いつでも気軽に行けて、親同士子育てに関する情報交換ができる親子の居場所が身近な地域に増加することが望まれています。

「健康づくり」では、いつまでも元気で暮らすために、様々な意向や身体状態にあった健康づくり活動のプログラムの必要性や活動の場や資金の確保の課題について挙げられました。

「防災・防犯」では、まずは日ごろの備えが必要といった、日常生活の中での意識を高めることや、災害時の支え合いの仕組としての災害時要援護者支援については、日ごろからの見守りや関係づくりが必要不可欠といった意見がありました。